

製品名: TAF1C ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21221**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IP 1:50-1:100
分子量	Calculated MW::Observed MW:96kD

抗原情報

遺伝子名	TAF1C
別名	TAF1C;TATA box-binding protein-associated factor RNA polymerase I subunit C ;RNA polymerase I-specific TBP-associated factor 110 kDa;TAFI110;TATA box-binding protein-associated factor 1C;TBP-associated factor 1C;Transcription initiation factor SL1/TIF-IB subunit C;
遺伝子 ID	9013.0
SwissProt ID	Q15572
免疫原	ヒト TAF1C の合成ペプチド

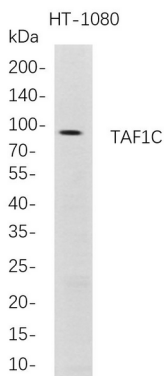
背景

細胞局在: 核、核小体。RNA ポリメラーゼ I による転写の開始には、TATA 結合タンパク質 (TBP) と RNA ポリメラーゼ I 特異的な 3 つの TBP 関連因子 (TAF) からなる複合体の形成が必要である。SL1 として知られるこの複合体は、リボソーム RNA 遺伝子のコアプロモーターに結合してポリメラーゼを適切な位置に配置させるとともに、制御シグナルの経路として機能する。この遺伝子は、SL1 特異的 TAF の中で最も大きなタンパク質をコードしている。異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが同定されている。[RefSeq 提供、2011 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



HT-1080 全細胞ライセートのウェスタンブロット解析。4~20% SDS-PAGE で分離し、膜を抗 TAF1C ウサギモノクローナル抗体でブロッキングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。